

平成 26 年度事業報告

事業概要

シルバー人材センター事業（以下「シルバー事業」という。）は、急速な少子高齢化が進展する中、地域社会を活性化の中核事業として、より一層の発展・拡充が期待されているところである。

このような中、行政をはじめとする関係機関や地域社会の支援をいただきながら、第3次中期事業基本計画を活動指針とし、「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもとに会員及び役職員が一体となって事業運営を強化・拡充し、地域社会の活性化に貢献する公益性の高い事業を展開してきた。

事業実績としては、受託事業に一般労働者派遣事業の実績を加えた総実績額は 257,131 千円となり、前年度より 14,429 千円（前年度対比 94.7%）の減となった。

また、会員数は 724 人と昨年度末より 1 人増加し就業率は 88.7%（会員数 724 人中、就業実人員 642 人）と昨年度を 0.6 ポイント上回った。

第3次中期事業基本計画に対する実績は、傷害事故件数以外は目標を達成することができなかった。

以下、平成 26 年度の事業実施状況についてその概要を報告する。

【第3次中期事業基本計画に対する実績】

| | 平成 26 年度 | |
|------------|------------|------------|
| | 目標値 | 実績 |
| 会員数 | 734 人 | 724 人 |
| 受託・派遣事業総実績 | 266,000 千円 | 257,131 千円 |
| 傷害事故件数 | 6 件以内 | 4 件 |
| 賠償事故件数 | 4 件以内 | 11 件 |

※傷害事故、賠償事故件数は保険適用外を含む。

1 事業実施報告

(1) 就業機会提供事業

① 雇用によらない就業機会の提供

高齢者にふさわしい地域に密着した仕事を一般家庭、民間企業及び公共団体等から有償で引き受け、会員の能力、希望等に応じて請負又は委任という形式で就業機会の提供に努めた。

受託事業については、昨年度の契約金額が大幅に伸びる要因となった「緊急雇用創出事業」及び単年度イベント「第 30 回全国都市緑化とっとりフェア」関連事業を補う規模の就業機会を確保することができなかったこともあり、契約金額は減少した。

しかし、一般家庭からの作業依頼は増加しており、引き続き日常生活に密着した就業機会の提供に努めていくこととする。

また、指定管理者として受注した駐輪場管理運營業務の実績は下記のとおりである。

ア お客様への親切、丁寧な対応が評価され、引き続き鳥取市営鳥取駅高架下第 1、第 2 自転車駐輪場（駐輪場）の指定管理者として、平成 30 年度までの 5 年間管理運営することになった。これまで蓄積したノウハウを活かしながら「親切・丁寧な対応、清潔で快適な自転車駐輪場」を目指して、公平かつ適正な管理運営に努めた。

今年度実績は、当初計画 14,755,000 円に対し、14,871,815 円（達成率 100.8%）と計画どおりの実績をあげることができた。

イ 提案事業であるパンク等の修理を行う「自転車有料修理サービス」は代用自転車の貸し出しと迅速な対応がお客様に好評で 273 件、491,560 円の実績をあげることができた。

ウ 鳥取市等から譲渡を受けた放置自転車の修理再生を行い、31 台を市民に提供し、会員の就業機会の拡大と資源の再利用に努めた。

② 雇用による就業機会の提供

適正就業の推進及び高齢者への幅広い就業ニーズの対応を図るため、一般労働者派遣事業及び職業紹介事業による就業機会の提供を行った。

一般労働者派遣事業については、派遣件数 16 件、派遣実績額 12,138 千円（前年度対比 96.5%）と昨年度よりわずかに減少した。

職業紹介事業については、無料職業紹介事業が求人件数 4 件、求職件数 4 件、就職件数 4 件の実績をあげることができた。また、8 月 1 日から有料職業紹介事業を開始した。

(2) 研修・技能講習事業

シルバー事業の基本理念及び仕組み等に対する理解を深めるための研修会並びに就業に必要な技能や知識の習得及び後継者の育成を図るための技能講習会を開催した。また、高齢者の健康維持、体力増進のための講座を開催した。

(3) 安全・適正就業推進事業

高齢者の就業に当たっては、安全就業を基本とし、事故防止対策に組織をあげて取り組まなければならない。高齢者が安全かつ適正に就業できるよう安全就業対策の徹底及び就業形態の適正化を図り、事故防止に努めた。

① 夏期に傷害・賠償事故が集中的に発生したため、傷害・賠償事故防止のための注意喚起文を全会員に配布するとともに、会報「シルバーとっとり」への啓発記事の掲載や職群班会議における注意喚起等、あらゆる機会をとらえて積極的に事故防止に取り組んだ。

② 会員の安全意識の高揚と就業中若しくは就業途上における事故防止のため、安全・適正就業部会が不定期で「安全就業の日」に安全パトロールを実施した。特に 7 月の「安全・適正就業強化月間」には役員も参加し、啓発に努めた。

③ 「自転車安全運転講習会」及び「自動車安全運転講習会」を行い、就業途上における事故の未然防止に取り組んだ。

- ④ 「安全大会」を開催し、熱中症予防のための知識の習得及び会員参加型のパネルディスカッションを通じて、安全意識の高揚を図った。
- ⑤ 安全・適正就業推進の一環として就業報告書様式の見直しを行い、平成26年8月1日から新様式に切り替えることとし、地域班連絡協議会等を通して会員に周知した。
- ⑥ 会員の安全意識の向上及び事故防止に対する注意喚起を促すため、「会員就業規約」の一部改正を行った。
- ⑦ 事故発生率の高い草刈り・除草作業や植木剪定作業等に就く会員に必要な情報が、速やかに伝わるよう会員連絡網を整備した。

(4) 普及啓発事業

地域社会にシルバー事業を広くPRすることにより、シルバー事業の意義、活動内容等が正しく理解されるよう普及啓発活動を積極的に行った。

- ① 啓発用ポスターを作成し、市内事業所や公民館等に掲示依頼するとともに、鳥取市の広報紙やホームページに啓発記事を掲載し、シルバー事業を広く地域に紹介した。
- ② 年2回発行している会報「シルバーとっとり」をリニューアルするとともに、より広く地域社会に情報提供できるよう配布数、配布先等を見直した。
- ③ 普及啓発部会による街頭でのパンフレットの配布、女性部会による地域イベントへの参加及び「用瀬取次所」を活用したイベント等を利用し、シルバー事業のPRに努めた。
- ④ 地元地方紙及びテレビ局への取材協力等、マスメディアを活用した普及啓発活動を行った。また、ホームページを適宜更新し、活動内容を分かりやすく情報提供するよう努めた。

(5) 就業分野の開拓・拡大事業

就業機会の拡大のため、高齢者の希望に応じた多様な就業機会の開拓に努めた。また、地域班連絡協議会を通じて会員ひとり一人が積極的に就業開拓に取り組むよう依頼し、会員の運営参画による就業機会の拡大に努めた。

- ① ハローワーク鳥取と連携し、高齢者向けの求人情報の収集に努めた。
- ② 役員が事業所等を訪問し、日頃のお礼と引き続きの利用をお願いした。お客様からは「仕事される会員が今年から交代されたが、引き継ぎが良くしてあり、申し分ありません。」等の感謝の声をいただいた。今後も、より一層お客様が満足される親切、丁寧な仕事を心掛けていくこととする。

(6) 福祉家事援助・子育て支援事業の推進

高齢者が長年培ってきた豊かな経験と知識を活用し、地域社会の要望を踏まえながら、地方公共団体と連携して地域密着型の事業を展開し、地域社会の活性化に貢献した。

- ① 行政と連携した応急軽度支援事業、高齢者の日常生活を支える家事援助サービスに対応できるよう会員交流研修会及び各種講習会を開催した。
- ② 「介護・子育て」事業の一環として毎月1回「にこにこ広場」を開催した。「にこにこ広場」は0～3歳の乳幼児を対象に会員が子育ての知識や経験を生かしながら、母

親の相談相手、ストレス解消も兼ねた情報交換の場としてボランティアで子育てを支援するものである。今年度は趣向をこらしたイベントを実施するとともに、子育てネットワークが主催する研修会に積極的に参加し、知識の習得及びPRに努めた結果、利用者を大幅に増やすことができた。

- ③ 鳥取市が主催する「子育て支援を考える会」に出席し、他団体と情報の共有化を図るとともに、地域イベント「子育てフェスタ」に支援団体として参加した。

(7) 社会参加活動推進事業

高齢者の社会参加活動を支援するため、市内の公共的施設等の清掃ボランティア作業を行い、地域社会に貢献するとともにシルバー事業の社会的意義の周知に努めた。

今年度は平成26年11月2日、3日に鳥取市で開催された「ワールドちゃんぽんクラシック 2014」の会場である鳥取駅南鉄道記念公園周辺を開催前に清掃し、地域イベントに貢献した。

(8) 調査研究事業

会員の就業実態及び運営状況等について発注者の評価を伺い、今後の事業運営に反映させるため、発注者満足度アンケート調査を実施し、お客様に対するサービス内容の改善に努めた。なお、調査結果は、会報「シルバーとっとり」及びホームページで市民に公開した。また、毎月事業実績等各種データの集計及び分析を行った。

(9) 相談、情報提供事業

入会を希望する高齢者のために毎月2回入会説明会を実施するとともに、就業に関する相談、定年後の就業や社会参加を希望する高齢者のために情報を提供した。

また、ホームページをリニューアルするとともに、講習会の開催計画、イベント等の紹介及び就業等に関する情報を積極的に提供した。

「用瀬取次所」を活用して地域住民へ情報提供するとともに、地元事業所とも連携し冬期（1、2月）を除く毎月第1水曜日に「手作り作品ふれあい展示会」を定期開催し、地域活性化に努めた。

(10) 組織の活性化と運営体制・財政基盤の強化

① 理事会、専門部会及び各委員会等

役員は、定款に定める総会、理事会の開催と規程等に基づく各種会議や研修会を開催し、公益社団法人として適正かつ円滑な運営に努めた。また、全国シルバー人材センター事業協会、中国ブロックシルバー人材センター連合協議会、鳥取県シルバー人材センター連合会主催の研修会及び経験交流会に参加し、自己能力の向上に努めた。

理事は専門部会（組織部会、普及啓発部会、事業推進部会、安全・適正就業部会、女性部会）のいずれかに所属し、分野ごとに職務を遂行した。

② 地域班・職群班活動

地域班連絡協議会を年5回開催するとともに、地域班会議、職群班会議及び事務局・会員相互の交流のための会員交流会を開催した。

③ 事務局体制の強化

事務局は、高齢者の就業意向や発注者からの仕事の依頼等、重要な情報が集まる場である。多様化する事務局運営に十分に対応するため、各種研修会や講習会に積極的に参加し、職員の資質と事務能力の向上に努めた。

④ 安定した財政運営の推進

国のシルバー事業実施要領等の見直しにより事業成果が問われる中、自主財源を確保するため受注拡大による事務費収入の確保に努めた。

また、設立35周年の節目の年を迎える平成28年度に実施予定である記念事業のための資金として「設立35周年記念事業積立資産」を設置した。